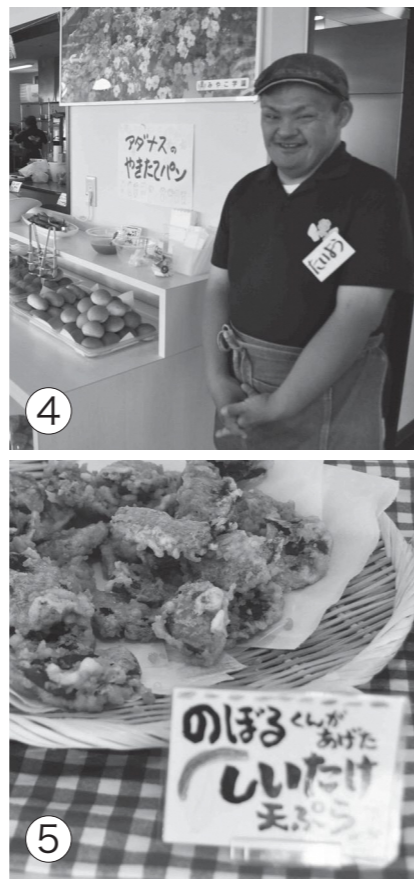


『アダナス』とは、アダンの木の根本のこと。その名の通り宮古島に根付き、障がい者の働く場と住民憩いの場を創り出しているお店が市内にあります。



レストラン太平山で働く皆さん。店長・職員・障がいのあるスタッフが丸となって、最高のサービスが提供できるよう日々、取り組んでいる。前列左から2番目が、お店をまとめる店長の黒澤さん。



①この日の店内はほぼ満席状態。平日にもかかわらず、ビュッフェ台の前は長蛇の列で賑わっている。②知的障がいの下地久美子さん(54)は厨房・ホール全体の仕事をこなしている。にこやかに取材に答えてくれながら、テキパキと仕事をこなしている。③店内のいたるところで見かけた『予約席』のカード。団体客の憩いの場として利用されていることが伺える。④来店したお客さんを笑顔で迎えるのは、知的障がいの本永太陽さん(38)。爽やかな笑顔と気配りでお客さんと挨拶を交わす。⑤お店で提供する料理の横には、作った人を示すカードが置かれている。誰が作ったかを見える化することで、従業員とお客さんの交流のきっかけに。自分が作った料理を食べてもらえる、と必然的にモチベーションもアップ。

相

互に人格と個性を尊重し合い、すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく共生できる社会の実現を目的として、平成28年4月に障がい者差別解消法が施行されました。

障がいを理由とする入店やサービス提供の拒否、制限、条件を付ける行為を禁止し、障がい者から配慮を求める意思の表明があった場合に、合理的な配慮を行うことが求められるようになりました。

例えば、車いすの人が乗り物に乗る時に手助けをする、窓口で障がいの特性に応じた伝達手段(筆談・手話・読み上げ)で対応することなどが求められます。

約20人に1人は、何かしらの障がいがある

障害手帳などを所有せず、病氣やけが等で、日常生活に支障を感している人も対象として調査した結果、日本の障がい者の総数(推計値)は、936.6万人※とされ、全人口の約7%は何らかの障がいがあるとされています。
(※厚生労働省平成28年せいいかつのしづらきに関する調査から)

『気配り』へのチャレンジ

優遇を受ける立場からする側へ。「知的障がいのある人たちは接客、しかも不特定のお客さまにサービスを提供するのは苦手、不得手な人が多いのですが、時間をかけて経験を重ね、自信につながっています」と話すのは、太平山店長の黒澤由香さん。その目線の先には、笑顔で接客する本永さんの姿がありました。

おすすめの料理を尋ねると、「はい、こちらです」と、笑顔で三枚肉の煮込みを紹介してくれた本永さん。その姿から接客が苦手な様



福祉施設アダナスで働く川満勇希さん(27)。慣れた手つきで食材の下ごしらえをしている。働き始めて1年3ヶ月が経ち、今では素晴らしい包丁捌きで厨房を率いている。

誰もが活躍できる社会

右の写真は、レストラン『太平山』で働く川満勇希さん(27)。生まれつき知的障がいがあります。勇希さんは、料理の経験無しで働き始めましたが、仕事をする内に料理の腕がみるみる上達。今では素晴らしい包丁捌きを披露し、厨房とお店全体を引っ張っています。得意のホワイトソースを使ったグラタンは、お店の人気メニューです。

『障がいは個性』。その個性を周りが理解し、受け入れることで障がい者が活躍できる場は大きく広がります。

今月号では、偏見や差別のない共生社会実現のために、障がいについて一緒に考えてみませんか。

子は感じられません。ですが、始めから上手くできた訳ではありませんでした。働き始めた頃は、おどおどしていたり、お客さんの話を聞き取ることが出来ないこともあったそうです。

職員と本人の二人三脚で、少しずつ努力を重ね、立派に対応ができるようになりました。

食が地域を結ぶ

太平山で出される野菜は、ほとんどが宮古島産。地産地消にこだわり、障がい者が輝くお店は、宮古島の住民と障がい者との繋がりを生み出しています。

レストラン太平山

住所：平良字久貝1264番地 ☎79-5523
営業時間：11時～15時(日曜日定休)

『文化作品展・川柳部門』 作品を募集します!

障害者週間(12月3日～9日)に、平良庁舎1階ロビーに展示する川柳を募集します。

【募集内容】

「バリアフリー」をテーマにした川柳。(1人1点まで)

【応募期間】

11月1日～21日まで

【募集方法】

申込用紙をFAX、またはメールで送付
申込用紙は、宮古島市ホームページからダウンロードできます。

問 障がい福祉課 ☎73-1975

